

毎月2回10日・25日発行  
発行所  
秋田県北秋田郡  
合川町役場  
編集責任者  
広報紙 杉淵佐一郎  
(合川町役場総務課)  
(TEL合川4番)  
(1回発行部数2,350)

わが合川町の酪農振興計画は「米代川中流集約酪農計画」の一環として計画されているが、その計画内容のあらましは次のとおりとなっている。

酪農の基礎は草地の改良であり、よい草からよい牛乳が搾られる。

現在の草地面積は一、一四〇良な牧草地に改良しようとするもので年度別の改良計画は次のとおりとなつてい

[illegible]

現在町内には四十三頭の乳牛が飼育されており、この生産乳量は三八九石（年間）であるが草地の改良と飼料畑の整備を基礎として次のような導入計画が樹てられている。

|     |    |
|-----|----|
| 三木田 | 三  |
| 摩当  | 二七 |
| 三里  | 三四 |
| 大内沢 | 五  |
| 芹沢  | 一六 |
| 東根田 | 二四 |
| 西根田 | 二四 |
| 李   | 二四 |
| 番   | 二四 |
| 一   | 二四 |
| 二   | 二四 |
| 三   | 二四 |
| 四   | 二四 |
| 五   | 二四 |
| 六   | 二四 |
| 七   | 二四 |
| 八   | 二四 |
| 九   | 二四 |
| 十   | 二四 |
| 十一  | 二四 |
| 十二  | 二四 |
| 十三  | 二四 |
| 十四  | 二四 |
| 十五  | 二四 |
| 十六  | 二四 |
| 十七  | 二四 |
| 十八  | 二四 |
| 十九  | 二四 |
| 二十  | 二四 |
| 二十一 | 二四 |
| 二十二 | 二四 |
| 二十三 | 二四 |
| 二十四 | 二四 |
| 二十五 | 二四 |
| 二十六 | 二四 |
| 二十七 | 二四 |
| 二十八 | 二四 |
| 二十九 | 二四 |
| 三十  | 二四 |
| 三十一 | 二四 |
| 三十二 | 二四 |
| 三十三 | 二四 |
| 三十四 | 二四 |
| 三十五 | 二四 |
| 三十六 | 二四 |
| 三十七 | 二四 |
| 三十八 | 二四 |
| 三十九 | 二四 |
| 四十  | 二四 |
| 四十一 | 二四 |
| 四十二 | 二四 |
| 四十三 | 二四 |

|| 酪農特集に寄せる ||

町長 畠山義郎

牛乳の集荷は県経済連が

一元的に集乳することになつており、この取扱機関は町内各農協であるが本町の場合は現在下大野農協に処理所が一カ所だけであるの

畜舎を整備するという

とは乳牛の保健衛生や糞尿処理のため是非必要なことであるから、二、五頭に引き一棟の割合で畜舎の整備を図ることとなつており、これには融資の道がひらけ

が合川町を含む北秋田どれほどの金がかか

郡一円は水田單作地帶として農家經濟が不安定な状態におかれてゐるが、この不安定さを解消するためにこんど乳牛を大量に導入して定期的に農家所得を増大し農家の經營を安定させようとするになつた。

つまりこれが集約酪農といふ？と思うにちがひない。合川町には現在、乳牛が六八頭に上つたが、生産量は八、〇〇〇と云ふことだ。

達しの代金は、一頭百萬元（これは町

二つの資金源が可

七、害の資金貸付の日前！

◎乳牛の導入を担当する機  
ます。(資料提供 山下 野豊 氏)

関は農業協同組合で、すか  
希望者はまず農協に相

◆畜産関係参考書案内◆

◎農協では飼料畑、採草地  
◇酪農相談室(技術と経営)

の状態 労働などを検討して導入農家の選定を行

◇乳牛の病気

定価二〇円二五円

◎導入資金の貸付は七割を  
◇家畜の病氣と藥の使い

限度とし、最高額五万円以内で限定されておりま

◇獣医のくるまで

定価一五〇円 二五円

◇飼料作物（つくり方と経

するか、または農協の自  
己資金を借りるかの方法  
◇エサ（りくつと実際）

定価一八〇円下二〇円

◇豚の上手な飼い方売り手

◎農協では農家の希望にも  
◇これからの農家養鶏

乳牛を導出し、乳牛は直  
定価一二〇円下二〇円

ちにか畜共済に加入する ◎発行所 東京都渋谷区幡

ことになります。

◎導入資金の償還に一生掛  
農林漁業イコ協会



乳牛は精密機械です

|               |               |       |
|---------------|---------------|-------|
| それなのに現在乳牛を飼   | 一斗の牛乳（脂肪率は三%  | ずである。 |
| つてゐる人、あるいはこれ  | として）を出している乳牛  |       |
| から乳牛を飼育しようとし  | にとつてみると、この乳牛  |       |
| ている人々の中には「乳牛  | には、毎日二七〇匁程度の  |       |
| を飼えば酪農だ……」と考  | タンパク質を与えなければ  |       |
| えている人が多いのではな  | いられないとされており、さ |       |
| いだらうか？        | らにその乳牛が出す一斗の  |       |
| 「数字に基礎をおかずに   | 牛乳の中には、約一五〇匁  |       |
| ロッに頼る酪農は失敗のもの | のタンパク質がふくまれて  |       |
|               | そして、これはまた別のい  |       |

|      |        |
|------|--------|
| 人    | 一七・二七% |
| ウ    | 二〇%    |
| マ    | 四・一七%  |
| 蒸気機関 | 一五・二〇% |
| 石油機関 | 二〇・二五% |
| ガス機関 | 三〇・三五% |
| ジーゼル |        |
| 機関   |        |

# 飼料の与え方

ナゼ酪脂は数字に基礎になる。  
 おいた仕事なのかといえど、問題はこの五七  
 第一に、それは乳牛という%という能率が、果してど  
 ものそれ自体の性質にもとれだけのものかということ  
 についてのことである。そして、それには、この数

舌で草をまいて口に運ぶ、これは生理的にまた解剖的に、長いものをそのまま食べるのが都合のよいことを示している。

たつ餌といふのは餌料を練る時の水分の多いやり力のことであるが、この方法をやるに唾液が多く分泌せず、従つて食塊の反応はまじい姿とはならないと

牛の一日の動作をよく観察してみると、健康なものは次のような実体がわかるものです。

はそのどれもが果されてい  
るとは考えられませんが、  
多くの問題がある中でもま  
ず取りあえず知らねばなら  
ぬこと、知つておいてもら

さらに公課金は、一完の率でかゝるのて仕方ないとしても、労賃はこれもあまりかけないで済むような経営のしくみと設備が必要ですが、単に牛乳量の多きを望み、すぐに高等登録牛を望んだりしてもそのまゝ、酪農経営が有利になるとは限らないです。要するに経営全般から考えてこそ有利な酪農といえるのです。

意して糞を見ると、必ず消化されたワラが含まれてゐることが判るのである。我々がワラを与えるの栄養供給のために与えるのであつて直接、糞製造原料として与えるものでないことを充分考える必要があるやう

◇穀物、豆類の与え方

穀物をそのまゝ与えたのでは、不消化のまゝ排出される。だから挽割にして与えるか、水浸しして充分ふくね上らせてから与えるよ

いこと、乳牛は食べたものを一応よく嚙んで、それを嚙下し、一度第一胃に入

に第三胃と腸と送る。

しかし水だけは第一胃に入らず、口から食道を通つてすぐ第三胃に入れる。だからフスマなどを多量の水でダブダブに練つて与えると牛は一息にスースーと吸い込み、第三胃に直行させてしまふのである。それではこのフスマなどは反すうさ

れなかつたのである。

ことがわかると思う。

◇飼料は必ず計算して与えること

能力、体重に應じて所要の飼料を計算して与えることが合理的である。

やゝもすればそれでは面倒くさいといつて胸算用、腹勘定でやつては駄目である。

この場合は蛋白質、澱粉、餌のほかにビタミンA（緑草に多く含まれている）灰分、茸科の草に多い）もよく考えることが必要である。

る比重が大きいので、出来るだけ自給部門をふやすこと、しかも出来るだけ安い費用で生産するように心がけることが第一の要点とされています。

また乳牛償却費を低くするためには、どうしても長く供用出来、少なくとも六産程度はとれるように、いつでも乳牛が健康を保つような飼いが望ましいので空胎などがあつてはすぐに生産費に響いて来ます。

るものに限つては四回搾乳  
四回飼い付とする方がよい  
のです。

あとがき

▽いつか皆さんにお約束し  
た酪農特集号をお届けいた  
します。まだかまだかと関  
係者からトクソクされなが  
ら全くズブの素人の編集、  
汗顔ものですが、酪農を志  
す人々の参考に幾分でもな  
るとするならば嬉しいこと  
です。



(係より 写真はいずれも大野台農場にて  
撮影したものです)

らと思うせいか、荒がみし  
て急いで嚙下する。それで  
やゝもすると、食道につつ  
かることがある。これを防  
ぐためには予めきざんでや

牛の一日の動作をよく観察してみると、健康なものは次のような実体がわかるものです。

はそのどれもが果されてい  
るとは考えられませんが、  
多くの問題がある中でもま  
ず取りあえず知らねばなら  
ぬこと、知つておいてもら

らしいが適當である。ただあまり水分が少ないと食べる中に粉がとび散るのでこれを防ぐ位がよい。

◇根葉の与え方

根葉を与える時、大きいまゝで食わせると、牛はど

うせ後で反すうするのだから、

糞を軟くするものとして  
 は青草（とくに豆科草）ブス  
 ナ、ナメコ油粕があり、硬  
 なものには良質乾草  
 ◇乳牛の生能と  
 飼料を与える回数◇  
 給与回数は一日三回が普  
 通とされていますが、初め  
 ての人の中には農馬なみに  
 一日六〜八回も与えている  
 こともあるようですから注  
 意しなければいけません。

なかつた。今までの全く顧みられなかつた草の改良問題について等々どれ一つたりあつても重要なことばかりでありし、経営全体としては成立つのかどうかという点を研究するには多少の経済的な知識も要求されてきます。

▽貧弱な編集子の知識で

また水分が多いので唾液も混合せず腸でも消化液は水のために薄められ、消化率は下る理くつである。

◇糞の状態に注意して  
乳牛を飼つていて、健康が否かを見るには一つは反すうがよく行われるかを見ることであり、一つは糞に氣をつけることである。

糞を排泄するときにピシャツ、ピシャツと四辺に飛び散るようでは駄目である。こんなときには折角の栄養が体のためにならないで

さらに公課金は一完の率でかゝるのを仕方ないとしても、労賃はこれもあまりかけないで済むような経営のしくみと設備が必要ですが、単に牛乳量の多きを望み、すぐに高等登録牛を望んだりしてもそのまゝ、酪農経営が有利になるとは限らないです。要するに経営全般から考えてこそ有利な酪農といえるのです。

▽酪農経営というものは  
今までの農業にたと乳牛を  
加えただけの経営ではなく  
経営全体として、乳牛を中  
心に回転する形をいうのだ  
そうですがそれをほりうが  
てみるとずいぶんいろいろ  
の研究課題が次から次へと  
出て来そうです。

▽まず乳牛について、あ  
るいは、耕種部門について

消いうこと、乳牛は食べたものを一応よく嚙んで、それを嚙下し、一度第一胃に入養れ、それを反すうしてさらに第三胃と腸と送る。

しかし水だけは第一胃に入らず、口から食道を通つてすぐ第三胃に入れる。だからフスマなどを多量の水でダブダブに練つて与えると牛は一息にスースと吸い込み、第三胃に直行させてしまふのである。それではこのフスマなどは反すうされないのである。

ことがわかると思う。

◇飼料は必ず計算して与えること

能力、体重に應じて所要の飼料を計算して与えることが合理的である。

やゝもすればそれでは面倒くさいといつて胸算用、腹勘定でやつては駄目である。

この場合は蛋白質、澱粉、餌のほかにビタミンA（緑草に多く含まれている）灰分、茸科の草に多い）もよく考えることが必要である。

る比重が大きいので、出来るだけ自給部門をふやすこと、しかも出来るだけ安い費用で生産するように心がけることが第一の要点とされています。

また乳牛償却費を低くするためには、どうしても長く供用出来、少なくとも六産程度はとれるように、いつでも乳牛が健康を保つような飼いが望ましいので空胎などがあつてはすぐに生産費に響いて来ます。

るものに限つては四回搾乳  
四回飼い付とする方がよい  
のです。

あとがき

▽いつか皆さんにお約束し  
た酪農特集号をお届けいた  
します。まだかまだかと関  
係者からトクソクされなが  
ら全くズブの素人の編集、  
汗顔ものですが、酪農を志  
す人々の参考に幾分でもな  
るとするならば嬉しいこと  
です。

らと思うせいか、荒がみし  
て急いで嚙下する。それで  
やゝもすると、食道につつ  
かることがある。これを防  
ぐためには予めきざんでや

牛の一日の動作をよく観察してみると、健康なものは次のような実体がわかるものです。

はそのどれもが果されてい  
るとは考えられませんが、  
多くの問題がある中でもま  
ず取りあえず知らねばなら  
ぬこと、知つておいてもら

らしいが適當である。ただあまり水分が少ないと食べる中に粉がとび散るのでこれを防ぐ位がよい。

◇根葉の与え方

根葉を与える時、大きいまゝで食わせると、牛はど

うせ後で反すうするのだから、

糞を軟くするものとして  
 は青草（とくに豆科草）ブス  
 ナ、ナメコ油粕があり、硬  
 なものには良質乾草ア  
 ンモ、  
 ◇乳牛の生能と  
 飼料を与える回数◇  
 給与回数は一日三回が普  
 通とされていますが、初め  
 ての人の中には農馬なみに  
 一日六〜八回も与えている  
 こともあるようですから注  
 意しなければいけません。

なかつた。そして全く顧みられなかつた。草の改良問題について等々どれ一つたりあつても重要なことばかりであり、経営全体としては成立つかどうかという点を研究するには多少の経済的な知識も要求されてきます。

▽貧弱な編集子の知識で

また水分が多いので唾液も混合せず腸でも消化液は水のために薄められ、消化率は下る理くつである。

◇糞の状態に注意して  
乳牛を飼つていて、健康が否かを見るには一つは反すうがよく行われるかを見ることであり、一つは糞に氣をつけることである。

糞を排泄するときにピシャツ、ピシャツと四辺に飛び散るようでは駄目である。こんなときには折角の栄養が体のためにならないで

さらに公課金は一完の率でかゝるのを仕方ないとしても、労賃はこれもあまりかけないで済むような経営のしくみと設備が必要ですが、単に牛乳量の多きを望み、すぐに高等登録牛を望んだりしてもそのまゝ、酪農経営が有利になるとは限らないです。要するに経営全般から考えてこそ有利な酪農といえるのです。

▽酪農経営というものは  
今までの農業にたと乳牛を  
加えただけの経営ではなく  
経営全体として、乳牛を中  
心に回転する形をいうのだ  
そうですがそれをほりうが  
てみるとずいぶんいろいろ  
の研究課題が次から次へと  
出て来そうです。

▽まず乳牛について、あ  
るいは、耕種部門について

消いうこと、乳牛は食べたものを一応よく嚙んで、それを嚙下し、一度第一胃に入養れ、それを反すうしてさらに第三胃と腸と送る。

しかし水だけは第一胃に入らず、口から食道を通つてすぐ第三胃に入れる。だからフスマなどを多量の水でダブダブに練つて与えると牛は一息にスースと吸い込み、第三胃に直行させてしまふのである。それではこのフスマなどは反すうされないのである。

ことがわかると思う。

◇飼料は必ず計算して与えること

能力、体重に應じて所要の飼料を計算して与えることが合理的である。

やゝもすればそれでは面倒くさいといつて胸算用、腹勘定でやつては駄目である。

この場合は蛋白質、澱粉、餌のほかにビタミンA（緑草に多く含まれている）灰分、茸科の草に多い）もよく考えることが必要である。

る比重が大きいので、出来るだけ自給部門をふやすこと、しかも出来るだけ安い費用で生産するように心がけることが第一の要点とされています。

また乳牛償却費を低くするためには、どうしても長く供用出来、少なくとも六産程度はとれるように、いつでも乳牛が健康を保つような飼いが望ましいので空胎などがあつてはすぐに生産費に響いて来ます。

るものに限つては四回搾乳  
四回飼い付とする方がよい  
のです。

あとがき

▽いつか皆さんにお約束し  
た酪農特集号をお届けいた  
します。まだかまだかと関  
係者からトクソクされなが  
ら全くズブの素人の編集、  
汗顔ものですが、酪農を志  
す人々の参考に幾分でもな  
るとするならば嬉しいこと  
です。